

# Keep Challenging!

挑戦しつづけることが、創造へと導く。

刻々と変革する現代において、数年前までは不可能だと思われていた製品が次々と世の中のスタンダードになっています。その背景には、最終製品を支える様々な素材の技術革新が欠かせない要素として存在しています。我々のような素材メーカーが生み出す素材は、私たちの誰もが知っている数多くの製品の中で、必要不可欠なキーパーツとして使用され、私たちの生活や産業の未来を創造しつづけています。人がいるところには必ず素材の需要があり、その商圏はグローバルへと広がっています。







# 「グラスファイバー」「繊維」「メディカル」など、 さまざまな素材開発と新規事業に挑戦し続けてきた 日東紡グループの製品は、私たちの暮らしを支えています。



## Focus01 :

世界的なイベントを彩る競技場

グラスファイバーは、世界的なスポーツイベントが行われる競技場の膜材として使用されています。

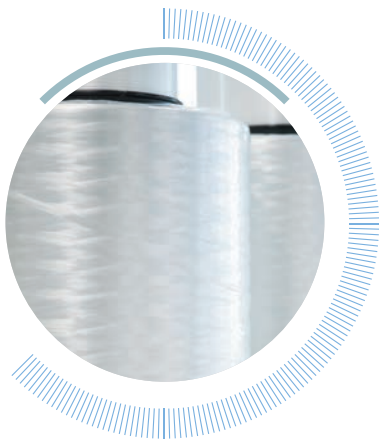
皆さんが好きな選手もこの競技場で活躍しているかもしれません。



## Focus02 :

目まぐるしく進化する IT 社会を支える

グラスファイバーは、スマートフォンやパソコンなどの情報端末の小型化・高機能化に独自の技術で貢献しています。



### Focus03 :

ファッションの繊細な美しさを表現する  
接着芯地はシルエットやスタイルを美しく演出する  
ための素材。レディース用接着芯地の国内シェア  
No.1 を誇っています。



### Focus04 :

検査現場から医療を支える

健康診断や病院での血液検査などに使われる体外  
診断薬は、病気の早期発見に役立っています。



### Focus05 :

安全、おいしいをお届けする

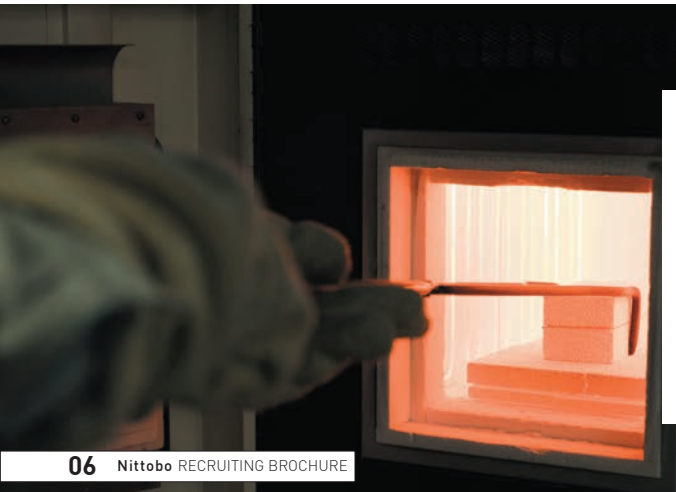
北アルプスの黒部の名水を使い、プライベート  
ブランドを中心に、安全で美味しいペット  
ボトル飲料を提供しています。





# 日本初

日本で初めてグラスファイバーの工業化に成功。



## 世界初、 No.1 を生み出し続ける 技術力と柔軟な創造性。



# 世界初

グラスファイバーのリーディングカンパニー

グラスファイバーを世界で初めて工業化  
(1938年に米国オーエンスと同時に成功)





# No.1

レディース用接着芯地の国内シェア No.1。

# More than 100

体内のどこに異常があるのかを  
検知するための体外診断薬は  
現在 100 以上の検査項目に対応。

# 世界×技術

ミクロン単位の超極薄ガラスクロスは、  
進化する情報端末の精密基材として世界から高い評価。



# 経営理念・日東紡宣言

## 経営理念

日東紡グループは「健康・快適な生活文化を創造する」  
企業集団として社会的存在価値を高め、豊かな社会の実現に貢献し続けます。

## 日東紡宣言

- 日東紡グループは社会の「ベストパートナー」を目指します。
- 私たちは、お客様の求めるものを絶えず追究し、お客様に「安心と信頼」を誠実にお届けすることを喜びとします。また、企業活動を通じ株主・投資家・行政・地域社会等すべてのステークホルダー(社会)と共に喜びを分かち合うことを大切にします。
- 私たちは自立した一人ひとりの社員の可能性を尊び、自由闊達にアイデアを出し合いながらチームワークにより力を発揮する企業集団を目指します。
- 私たち企業グループは社員の成長が会社の成長であることを信じ、社員に成長と自己実現の機会を提供します。社員はまず第一に良き市民であり、深く考え、広く見渡し、果敢に行動します。そして粘り強くやり遂げます。





# Work Style

日東紡で働く社員がどのような業務を担当し、何を想い、何にやりがいを感じ、日々の業務に邁進しているのか、様々なフィールドで活躍する日東紡の社員を紹介します。



## 日東紡の奥深い技術を土台に画期的な開発への挑戦 貫井 洋佑

総合研究所  
ファイバー研究開発センター  
2013年入社



## 信念と使命感をもち、広大なマーケットを開拓する 橋本 輝

グラスファイバー事業部門  
営業担当(電子材料向け資材)  
2011年入社



## 日東紡の独自技術と先端技術を融和し 新しい生産体制を作る 長畠 真広

生産・技術本部  
生産技術センター  
2015年入社



## 体外診断薬の開発を通じ、世界の治療ニーズに応える 柏倉 春香

総合研究所  
メディカル研究開発センター  
2016年入社



## 若手を育てようという社風。だからこそ、成長が実感できる 河村 美貴

本部  
経理財務担当  
2016年入社



日東紡の奥深い技術を土台に  
画期的な開発への挑戦



YOSUKE NUKUI

**貫井 洋佑**総合研究所  
ファイバー研究開発センター  
2013年入社**世界へ日東紡ブランドを広げる**

私が所属するファイバー研究開発センターは、様々な分野に採用されている繊維強化複合材料 (FRP、FRTP) に用いられるガラス繊維の研究・開発・試作を行っています。私はガラス繊維の製品開発を担当しており、使用目的やコストなど、ユーザー企業様からのニーズを汲み取って開発と試作を日々繰り返しています。新たな発見を効率よく施策へと落とし込むためにも、研究・開発・試作をバランスよく行うことが重要だと考えています。

製品開発だけではなく、世の中にガラス繊維や日東紡の認知を広げるために国内外の学会・展示会に参加することも業務の一環です。海外の学会でプレゼンテーションを行った際は、英語の勉強にも注力しました。デジタルツールでの勉強が中心でしたが、集中して自分を追い込めばなん

とかなるものだなと実感しています。今では英語での発表が楽しみの一つです。

**『日東紡の技術』  
その深さに驚く日々**

日東紡のガラス繊維は歴史が非常に長く、蓄積された製造技術や、現場の方々のスキル、改善レベルがとても高いです。確立されている技術を超え、さらなる高みを目指すのが私たちのミッションですが、開発を進めていけばいくほど多くの課題に直面します。「結局は長年の課題となっている根本的な問題にぶつかるのか」と肩を落とすことや、「先人の技術者が挑戦してきた領域に、私はまだタッチすらできていないのか」と思うことも多々あり、そのたびに、「日東紡の技術は本当に深い」と痛感しています。

数々の困難な課題を自分一人で解決

**研究に対する“姿勢”や“思考法”こそが大切**

私は就活時代、繊維分野をはじめ、化学メーカー、電機メーカー、商社など、様々な業種にチャレンジしました。中でも繊維強化複合材料に興味があり、日東紡の他に炭素繊維メーカーも受けました。大学院では物理学を研究していたため、学生時代の研究内容を直接活かせる企業はほとんどありません。しかし、仕事に大切なことは、学生時代の研究内容との関連性よりも研究や開発に対する姿勢だと思います。日東紡の面接でも、研究の内容説明よりも、辛くても逃げない姿勢や物事の本質を掴むためにはどう考え、どう行動するか、といった研究に対するプロセスをアピールしました。大学で培ってきた専門スキルが事業と一致していなくても大丈夫です。多くの企業を訪ね、自分はどんな姿勢で研究に臨み、どんな思考法を身に付けてきたかを強くアピールしていきましょう。

**技術者として世に名を残す**

今後の目標は、「あの製品は貫井が作った」と認められるような自分のグレードの製品を一年に一つ以上立ち上げながら、特許も出し続けていくことです。

やはり技術者は、自分の名前を世に残すことが喜びであり使命だと思うので、学会発表にも積極的に参加し、自分と日東紡の名を世界に広げていきたいと思っています。そして着実に結果を残すことで、会社にさらなる活気を生み出せる存在になりたいです。

**人材は財産**

私は応用開発グループのリーダーとして、ときには後輩社員に対して、教えて事細かく指導をすることもあります。彼らが部署を支える人材へと成長していくことこそが、グループリーダーとしての私の職務だと思っているからです。若手社員の個性は様々ですが、それぞれに合った指導を行い、最大限のパフォーマンスを発揮できるよう取り組んでいます。

**ONE DAY SCHEDULE  
一般的なスケジュール**

- ▶ 08:20 出社。メールチェック。
- ▶ 09:00 営業部と開発品に関する打ち合わせ。
- ▶ 13:00 実生産機による開発品の立会い。
- ▶ 16:00 試作結果についてチームミーティング。
- ▶ 17:00 業務を終え、帰宅。

**CAREER STEPS  
キャリアステップ**

- ▶ 2013年 日東紡入社。研究所にてガラス成分比率に関する基礎研究や、新規ガラスの現場展開に携わる。
- ▶ 2014年 技術開発センターに異動。ガラス繊維に関する商品開発を行う。
- ▶ 2015年 生産技術センターに異動。生産技術戦略の立案を担う。複数所場横断活動の推進や、現場改善のマネジメントも経験する。
- ▶ 2018年 ファイバー研究開発センターに異動となり現職。ガラス繊維に関する商品開発を行う。

**信念と使命感をもち、  
広大なマーケットを開拓する**







HIKARU HASHIMOTO

## 橋本 輝

グラスファイバー事業部門  
営業担当(電子材料向け資材)  
2011年入社

## 「日東紡のガラスがなければ困る」

2011年の入社以来、一貫してグラスファイバーの営業に携わってきました。私が属するグラスファイバー事業部門の「ヤーン」とは、織物用の「糸」のこと。グラスファイバー製のヤーンを、プリント配線基板や産業資材用に製造販売しています。なかでも私は、主にスマートフォン等の高性能電子機器に用いられるプリント配線基板向けのグラスファイバー製品を取り扱っています。日東紡は1938年(昭和13年)に、日本で初めてグラスファイバーの工業化に成功しました。それだけに、お客様からの信頼度の高さが大きな特徴です。他社には真似できない独自性をもつ製品ラインアップが揃っていると実感しています。営業場面では、お客様から「日東紡のガラスがなければ困る」と言っただけことは少なくありません。それだけに私たち営業担当は、さらなる拡販とともにお客様への安定供給を意

識し続けることが大切になるのです。

## 営業担当としての大きな「試練」

私たちが扱うグラスファイバー製のヤーンは、以前は国内を中心に製造していました。しかしさらなるステップアップを目指して、製品の一部を海外での生産へと舵を切りました。私が担当していたあるお客様は、国内製品を使い続けることに強い拘りをもっておられました。そのお客様に納入していた製品は、まさに海外生産が決まったものだったのです。国内生産から海外生産への切り替えは、当社にとっては同じ日東紡の製品であっても、お客様にとっては新規の「海外製品」になることを意味します。お客様にどのように納得していただくべきか。営業担当としては正直なところ頭の痛い問題でした。当方の事情をお伝えしたところ、当然の如く抵抗感を示されます。価格設定も新しく決め

## 専攻が活かせる仕事だけではなく、働く環境にも着目してください

就職活動では、つい周囲の仲間と自分を比較してしまうものです。そのことで、自分の気持ちが左右してしまう場面もあることでしょう。少なくとも私はそうでした(笑)。しかし、あるとき気付きました。「自分は自分だ」と。他者と自分を比較したところで、答えが出るわけはありません。大切なことは、等身大の自分を出せばいいということ。どんな内容にせよ、自分はどんなことをしてきたのか。何を考えているのか。こうしたことを自分の言葉で話せばいいのです。そして不明点があれば、臆さず聞くということ。お互いに、いつかは長い期間共に働く仲間となるかもしれないのです。どんどん質問して相互に理解を深めていくことを意識してください。

なければならない。納入条件も見直さなければならない…。取引継続のためには、お客様と一つひとつ問題をクリアにしなければ前に進むことができません。

## タフなネゴシエーションの先に

営業担当としては幾度となく壁にぶつかりましたが、少し格好のいい言い方になりますが、私にはある信念がありました。それは「日東紡の製品が、お客様にとってのキーパーツになっている」ということ。それは品質に対して、強い自信があるからです。私なりの「信念」を胸に幾度となくお客様を訪問しました。お客様に、日東紡を評価して頂いているポイントや海外製品ではダメな理由を、急押しするように確認するとともに、お客様へのメリットを、丁寧に伝えしていきました。生産地変更は、確実にお客様へのコストメリットにつながります。一方で、

従来の国内製造品と同水準での品質も保証します。きわめてタフなネゴシエーションとなりましたが、半年後にはなんとか評価用のサンプル納入にまでたどりつくことができました。評価結果は、双方に満足 of いくものとなり、最終的には無事お客様に海外生産への切り替えを納得していただくことができました。営業の仕事は、お客様の課題を解決していくことです。私は今回の交渉を通じて、「課題解決のために何をなすべきか」を考え抜く大切さを改めて実感することができました。この経験は、現在の仕事の取り組み方にもつながっており、私の中で非常に大きな財産になっています。

今では海外の重要顧客も任されています。国内ばかりではなく、海外マーケットをいかに拡げていけるか。この目標達成に向けて、私自身もさらなるステップアップを目指したいと思います。

## ONE DAY SCHEDULE

## 一般的なスケジュール

- ▶ 09:00  
出社後、メールチェック。そしてスケジュールを確認。
- ▶ 10:00  
工場と納期や品質対応などを確認。
- ▶ 13:00  
お客様を訪問。打ち合わせで詳細確認。必要に応じて、工場へ打ち合わせに行くことも。
- ▶ 16:00  
帰社後、情報を整理し議事録作成。
- ▶ 17:25  
退社。

## CAREER STEPS

## キャリアステップ

- ▶ 2011年  
日東紡入社。福島工場での工場実習後、電材営業グループに配属。電子材料用ガラスクロスの営業に従事。
- ▶ 2014年  
プリント配線基板用ヤーンの営業に携わる。



**日東紡の独自技術と先端技術を融和し  
新しい生産体制を作る**



MASAHIRO NAGAHATA

**長島 真広**生産・技術本部  
生産技術センター  
2015年入社**スマートな生産形態を実現する**

私は福島第一工場を拠点にし、グループ会社各工場の製造プロセスの改善業務を担っています。作業・工程分析を通じた「改善ポイントの抽出」、どの製品をどの順序で作るかを決める「作業計画の合理化」、設備稼働などの状態をリアルタイムで把握するための「見える化」まで、業務の幅は多岐にわたります。「改善ポイントの抽出」の一例を挙げると、工場全体の生産能力は、一番生産能力の低いボトルネック工程に依存します。現状を正しく把握するために、各工程の生産能力の計測・評価を行います。やみくもに設備投資を行うのではなく、評価結果を踏まえ、どの工程の改善に優先的に着手するかを見極めることが重要です。これらの業務を通して、人の作業負荷・設備の能力・製品の需給、これら3つのバランスが取れたスマートな生産形態を実現することが

私のミッションです。

**諦めず“新しい風を吹かせる”**

私は工場内の様々な工程の「見える化」をテーマに活動しています。この活動は全社的にも優先課題とされている重要なミッションです。長い歴史を持つ日東紡には、先人が培ってきた独自の製造技術・作業ノウハウが多く存在します。このような環境下で、見える化はこれまでの製造フローを変革するきっかけとなる“新しい風を吹かせる”活動といえます。見える化と、その先の改善を推進する中で大事なことは、これまで培ってきたプロセスと、時代に合った先端技術を融和させることであると考えています。日東紡の高品位なガラス製品を作るうえで、「本当に必要な作業」と「慣例で行っている作業」を正しく見極め、ムダを省くことが必要です。“変化”をすることに、初めは大きなエネルギーが必要ですが、

**自分の考えを正直に、誠実に伝えることが肝要**

面接では、緊張して言葉に詰まる場面もあるでしょうが、そこは気にしなくても大丈夫です。受け売りの言葉で自分を飾るよりも、自分の考えを“誠実”に伝えることが最も大切です。学生時代に何か打ち込んだ経験があれば、そこでの努力や、学んだことを正直に話してみてください。学生時代の専門が、会社の仕事と100%マッチすることはありえません。むしろ、専門にとらわれず、自分の持っている知識や経験がどこに応用できるかを考え、周囲へ浸透させ、環境を切り開いていける方が求められます。現在、日東紡は“新しい風を吹かせる”活動を推進している最中にあります。同志はもっとほしいので、改革の“うねり”をカタチにしたい方はぜひエントリーを！日東紡には、新たな考えを受け入れる風土があります。

粘り強く諦めずに推し進めていきたいと思っています。

**会社全体の調和を作る**

「見える化」によって生産実績・現場の実態が正しく共有できるようになった後は、「製造現場の改善活動がストレートに会社の収益に反映するような体制を作る」という野望を持っています。同じものを同じ量だけ作るならば、「現場作業が楽になった分」が結果として会社の収益に反映されることが、生産性向上の基本であると考えようになったからです。

この考えに至るきっかけは、私が入社後まもなく与えられた業務にあります。当時、私は断熱材用途グラスウールの加工ライン改造を任されました。改造目的は、「オペレーター一人あたりの生産量を増やす」というものでした。初めは、机上での設計ばかり行っており、オペレータの作業負荷ま

で考えが至りませんでした。ヒアリングをする中で、現場には現場の工夫や想いがあり、それによって作業が成り立っていることに気付かされたのです。その後は現場の声を反映した設計を行い、最終的には、変化する製品需要にも少ない人数でフレキシブルに対応できるラインを構築でき、現場が楽になることと生産性向上の両立が実現できました。

こうした経験を経て今では、会社の中での私の役割は、製造現場の方々と管理層や経営層との橋渡しだと捉えるようになりました。そこでキーとなるのは本音のコミュニケーションです。雑談レベルから各セクションの実態やニーズを正確に受け止め、課題解決を考え、提案し、実行する。そして、一つずつ成果を出し、新しいことに挑戦する風土を日東紡に深く根付かせていく。皆に喜ばれる職場環境に向かって、会社全体の調和を生み出す一助となることを目指し続けます。

**ONE DAY SCHEDULE**  
**一般的なスケジュール**

- ▶ 08:20 出社。メールチェック。
- ▶ 09:00 グループ内でのミーティングで情報共有。
- ▶ 11:00 担当工場の製造部の方とミーティング。
- ▶ 13:00 ミーティングで聞いたニーズをもとに、仕様を作る。
- ▶ 15:00 製造設備について、他社の特許調査をする。
- ▶ 16:45 業務を終え、帰宅。

**CAREER STEPS**  
**キャリアステップ**

- ▶ 2015年 日東紡入社。生産技術センターに配属され、設備開発グループの一員として、要素技術開発や機械設計を担う。設備異常検出装置の開発や、生産ラインの省人化設計などの業務を通して、製図スキルや設備設計の要点(安全性・生産性・信頼性)を習得する。
- ▶ 2018年 生産技術センター内の改善推進グループに異動。製造工程の「見える化」をメインに担当。人の作業時間と機械の動作時間を測定・分析し、改善すべきポイントを抽出して製造現場の作業改善に落とし込んでいる。



体外診断薬の開発を通じ、  
世界の治療ニーズに応える





HARUKA KASHIWAGURA

柏倉 春香

総合研究所  
メディカル研究開発センター  
2016年入社

## 難病の診断薬を改善する

私が所属するメディカル研究開発センターは、病院の検査室や検査センターで使用される血液診断用試薬「体外診断薬」の研究開発を行っています。現在の私の担当テーマは免疫学検査に用いられる診断薬の性能改善です。近年注目の難病である、自己免疫性疾患の診断薬であり、世界でのニーズも高まっています。具体的な業務としては、ユーザーの声や社内試験の結果をもとに性能課題を洗い出し、原因究明や課題解決のための実験・データ解析を繰り返します。診断薬は様々な化学薬品や、マウスやヤギなどの生体由来の物質から構成されるため、性能を安定的に保持する工夫など、検討事項は多岐にわたります。測定対象も患者様の血液という千差万別な物質なため、開発段階ではうまくいっても上市後に予想外のデータが出る場合があります。最適な試薬組成の決定から、安定して製造するための手順書作成、品質を担保するための性能規格作成

まで、タスクは多いですが、私が測定してまとめ上げたデータが製品パンフレットに掲載されているのを目にすると、このプロジェクトに携われたことを実感でき、達成感が湧き上がってきます。

## 世界の医療からの評価に応える

性能改善を担当している診断薬の大きな特徴は多くの病院が所有する汎用的な自動分析機への適用が可能であり、診断の範囲が広がったことにあります。性能改善を実現するには、測定機器によって診断結果にムラが出ないよう、数多くの機器での検査が必須となります。ときには予想外なデータが出ることもありましたが、当研究所は上司との距離が近いため、その都度、すぐに報告と相談ができました。スピード感を持って開発にあたれることが当研究所の強みなのだと改めて思っています。また、海外機関との協業や学会発表などを通じて、自社製品が医療現場でどう評価されて

## 専攻に固執せず、“成長できる環境”も重視してください

私は面接では飛躍したアピールはせず、等身大の自分を伝えることに徹しました。日東紡の面接は、面接官が優しく緊張をほぐしてくれたことを覚えています。就活当初、私はガラス繊維の研究開発を志望していましたが、日東紡の会社説明で、大学院の専攻である工学研究はメディカル事業にも活かされると気付きました。専攻にこだわるよりも、成長著しいメディカル事業で変革的な研究に携われれば、一層の成長ができるのではないかと思います。志望先を変更しました。事業展開が幅広い会社は多いですが、日東紡はその全ての事業に興味を抱ける点も魅力的でした。実際に研究所では様々な専攻分野の社員から新鮮なアイデアが生まれ、刺激的です。皆さんも専攻に固執せず、ぜひ幅広い視点で会社を判断してみてください。

いるかを知ることができるのも診断薬開発を担当する醍醐味の一つです。海外との意見交換では英語が必須ですので、英会話スクールやオンライン英会話を活用した結果、入社2年目には海外展示会でも自分が望むコミュニケーションが取れるようになりました。今後も担当診断薬が海外学会で発表される予定があり、世界の医療現場からの評価を聞ける機会もあるため、楽しみにしています。質問対応が求められるため、責任は重大ですが、自分の飛躍のチャンスだと捉え、ワクワクした気持ちを抱えています。

## 入社年次を問わず、挑戦できる社風

これまで私が取り組んだ仕事は上市間近の製品の製造移管業務でした。先輩方が試行錯誤して測定原理を確立させてきたユニークな診断薬を製品化するための最終検討工程に携われたことで、診断薬に込められた様々なノウハウについて学ぶことができました。

今後は自分がコンセプト発案から関わった製品を上市することを目標としています。もちろん開発は一人では実現できませんが、自分の手で立証したデータをもとに、製品を世に送り出すことを目指しています。自分のアイデアが性能に反映されている診断薬で患者様に貢献できたら、大きな喜びに繋がります。現在、私は後輩社員もでき、若手リーダーの立場としての役割を考える機会が増えてきました。当社は自分の存在感をアピールしやすい社員規模であり、その分、自分の頑張りや社内各所で認めてもらえている実感を得られる環境です。入社年次に関わらず様々な業務にチャレンジさせてもらえます。温かみのある環境に感謝しつつ、今後は先輩や後輩、社内外問わず、自分と関わった全ての人から一層の信頼を獲得していきたいと思っています。2020年春には総合研究所の新建屋も完成し、他部署の方々とも今まで以上にコミュニケーションが取りやすくなるので、とても楽しみです。

## ONE DAY SCHEDULE 一般的なスケジュール

- ▶ 08:20 出社。メールチェック。
- ▶ 09:00 月曜日の週一ミーティングでその週にやるべきことを整理する。
- ▶ 10:00 施設内の実験室で実験測定。午前はデータ収集をすることが多い。
- ▶ 13:00 他部署との打ち合わせ。月に一回は、メディカル研究開発センターの報告会がある。2ヶ月に一回はプレゼンテーションも担当する。
- ▶ 15:00 プレゼンテーションで消化不良の部分があったら上司と考察を深めるディスカッション。
- ▶ 16:45 業務を終え、帰宅。実験測定に時間がかかる場合は、キリのよいところまで1時間ほど残業をするときもあります。

## CAREER STEPS キャリアステップ

- ▶ 2016年 日東紡入社。ニットーボーメディカル株式会社 研究開発部に配属。乳癌診断に関わる新規診断薬開発に向けた探索研究を行う。
- ▶ 2017年 日東紡 総合研究所設立。メディカル研究開発センターに所属となり現職。上市が近い製品の開発テーマを受け持ち、製品化に向けた性能検討や製造移管検討に注力。上市の達成後も同製品のテーマを継続して担当し、さらなる性能向上やユーザー対応のために研究開発業務に取り組む。



若手を育てようという社風。  
だからこそ、成長が実感できる





**MIKI KAWAMURA**  
**河村 美貴**

本部  
経理財務担当  
2016年入社

## 若手をみんなで育てよう という社風

私は法学部の出身でしたが、就職活動では法務という仕事をイメージしていたわけではありません。むしろ社会に出たら、いろいろな職種を経験したいと考えていました。日東紡に入社後、配属となったのは財務経理部。学生時代の私にとって経理の仕事は未知のものでしたが、就職活動時に社会人の方から「どんな職種に就くにしても、簿記の勉強はしておいて損はないですよ」というアドバイスをいただいていたので、自分なりに勉強しておいたことが今の基礎になっていると感じています。日東紡に入社後、最初に配属となったのは経理財務部 経理第二グループという、日東紡グループの連結決算と開示を担当する

部署です。新人である私以外は、みな公認会計士の有資格者という環境のなか、「私にこの仕事ができるのだろうか」と悩んだこともありましたが、部長自らが私に課題を出してくれて、丁寧に会計の解説をしてくれることもあり、日東紡には「若手をみんなで育てよう」という雰囲気があるということを実感しました。

## 常に相談できる。 だから立ち向かえる

約一年間、経理第二グループで連結決算に携わった後、単体決算と財務を担う経理第一グループへと異動になりました。当時の私は「税務素人」の状態でしたが、上司に「税務について、全体像がつかみきれない」と相談したところ、すぐに講義してくれる

## 自分自身としっかり向き合って、エントリーシートづくりを確実に

私の場合、面接のために何か特別なことをしたという記憶はありません。あえて言うなら、面接では明るくて元気な表情づくりと、面接官を前にして自分自身のなかで論理破綻しないことに気をつけていました。緊張のあまり、話をしている自己矛盾に気づくことはあります。また、不意な問いかけに対して、答えに窮する場面も出てきます。こうしたことを回避するために、エントリーシートをしっかりと考えながら記入していました。エントリーシートを書く際に、自分自身と向き合い、相手に伝えたいことは何かということを正しく理解していれば、それほど構える必要はないと思っています。気負いすることなく、悔いのないように自分らしく就職活動を頑張ってください。

ことになりました。日々の業務から自主的に学び取るという姿勢は大切ですが、不明点はフォローしてくれる雰囲気があることは心の支えとなっています。異動後すぐに、海外子会社の消費税申告という難しい業務を任せられましたが、難しい業務であっても、常に相談できる環境があるからこそ、恐れることなく立ち向かうことができたと感じています。

## 責任ある業務が成長を 後押しする

私たちが毎月つくる決算書は、会社の経営成績や財政状態を把握するうえで大切な資料です。また、上場企業として四半期毎の有価証券報告書の開示を行うための重要な基資料になるため、正確性と期限の厳守と

いう2点をとても大切にしています。毎月の決算は、社内に向けては経営判断のための重要資料になり、社外に対しては株価値形成の判断資料の大元になります。決算書に誤りがあれば、正しい判断ができなくなるとともに、会社の信用にも大きく関わりますし、それらの情報は常にタイムリーでなければなりません。正確であることと期限を厳守することの2点を担保するために、業務繁忙期となる決算月をいかに慌てずに迎えることができるかということを意識しながら、3ヵ月全体を見据えて、日々の自分の動き方を考えるようにしています。経理財務部には、経理のほかにも予算作成などを担う財務管理グループがあります。経理業務を覚えた後は、財務にも挑戦したいと考えています。

## ONE DAY SCHEDULE 一般的なスケジュール

- ▶ 09:00  
出社後、09:00より朝礼。  
1日の動き方は、3ヵ月毎の決算月か、そうでないかによって違いがあります。決算月でなければ、1日を伝票のチェックに費やすことも珍しくありません。
- ▶ 11:00  
伝票の内容について事業部に問い合わせ。必要に応じて事業部に出向き、担当者に確認作業。
- ▶ 17:30  
退社。全体的に残業する人は多くありません。定時後1時間以内に、ほとんどの人が退社します。

## CAREER STEPS キャリアステップ

- ▶ 2016年  
日東紡入社。経理財務部 経理第二グループに配属。連結決算と開示に携わる。
- ▶ 2017年  
経理財務部 経理第一グループに異動。異動後、日東紡の単体決算・税務に携わる。

# 福利厚生・教育制度

## 福利厚生

### 住宅補助

社員の住まいに関するサポートを実施しています。

|         |                            |
|---------|----------------------------|
| 寮・社宅の用意 | 各事業所の周辺に寮や社宅を設けています。       |
| 住宅手当    | 自家や借家に住む社員に住宅補助手当を支給しています。 |



### 育児支援制度

仕事と育児の両立支援を推進しています。

|               |                                            |
|---------------|--------------------------------------------|
| 育児休職          | 産前産後各8週間の出産休暇に加え、子どもが2歳に達するまで育児休職を取得できます。  |
| 短時間勤務/フレックス勤務 | 子どもが小学校3年生になるまで、勤務時間の短縮やフレックス勤務をすることができます。 |

### 福利厚生施設

社員の健康保持のため、様々な福利厚生施設を設置しています。

|             |                                      |
|-------------|--------------------------------------|
| 社内診療室       | 社内に診療室を設けており、診療を受けることができます。          |
| スポーツクラブとの提携 | 外部スポーツクラブと提携しており、社員は無料又は優待価格で利用できます。 |

### その他

持株会や財産形成貯蓄制度、子どもの教育費融資などのサポートも充実させています。



## 教育制度

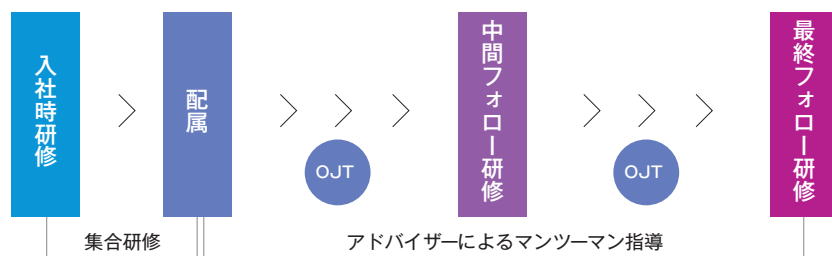
日東紡グループは「社員の成長が会社の成長」であることを信じ、社員に成長と自己実現の機会を提供しています。入社年次・昇進に応じた研修の実施や、スキルアップ支援を通じて社員の成長を促す環境を整えています。

### 【例／新入社員研修】

入社1年目の社員を「実習生」と位置づけ、この1年を実習期間としています。

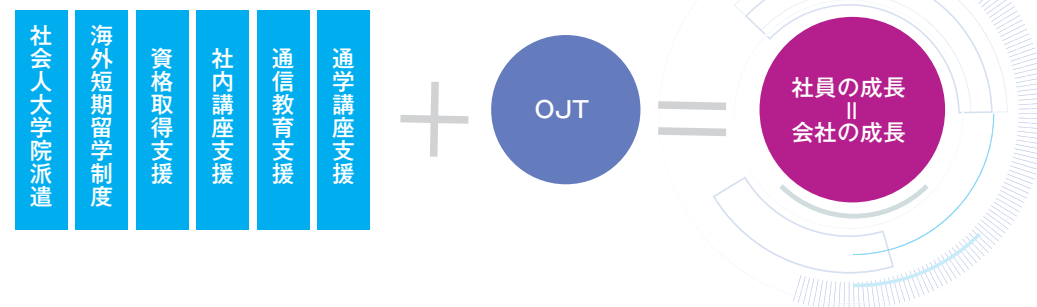
★第一次実習：東京本部での集合研修

★第二次実習：配属先での実践的な実習（OJT、OFF-JT）



## ■ スキルアップ支援

社会人大学院派遣や海外短期留学制度、資格取得支援などにより社員の成長をバックアップしていきます。



## 次世代リーダー・グローバル人材の育成

中堅・若手社員を対象により高度な専門知識・技能やグローバルの資質の習得を支援しています。

### 海外外部派遣制度

#### 語学留学コース

海外の大学で語学を学びます。語学留学後は海外関係会社での実務経験を積むことができます。

#### ビジネススクール派遣コース

欧米ビジネススクールなどのグローバルな環境下で、【MBA/経営学修士】の取得を目指します。

#### 海外研究機関派遣コース

海外研究機関（大学・研究所）で最先端の技術やグローバルな視点をもって研究開発に携わります。

#### 海外企業インターンコース

グループ会社外の海外企業で就労し、実務経験を積むことができます。

### 国内外外部派遣制度

#### 社会人大学院派遣コース

【MBA/経営学修士】【MOT/技術経営修士】のコースから選択。勤務しながら通学し高度な専門知識を取得できます。

この他にもオンライン英会話を会社負担で受講できるプログラムがあります。

## キャリアプランの支援

キャリアプランに合わせて、スキルや能力を磨く支援をしています。

### 自己啓発支援制度

各支援とも、受講修了者には受講料の40～60%を還元します。（資格取得支援、英会話スクール支援を除く）

#### 通信教育支援

語学や専門知識、ビジネススキルなど約200の講座から、好きなコースを受講できます。

#### 資格取得支援

各種資格を取得した人に、祝い金を贈呈しています。

#### 通学講座支援

マネジメント、経営戦略、マーケティング、英会話などを学ぶスクールへの通学料金の一部を会社が負担します。

#### 社内講座支援

自己啓発を目的とした社外講師による講座を、有志のグループで開設することができます。

## 会社概要

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
|---------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 設立      | 1898(明治31)年2月 郡山絹糸紡績株式会社(郡山)設立<br>1918(大正7)年4月 福島精練製糸株式会社(福島)設立<br>1923(大正12)年4月 日東紡績株式会社創立                                                                                                                                                                                                                |
| 事業所     | 本部/東京都千代田区麹町二丁目4番地1<br>本店/福島県福島市郷野目字東1番地<br>支店/大阪、名古屋<br>工場/福島、郡山、伊丹ほか<br>海外/アメリカ、中国、マカオ、台湾ほか                                                                                                                                                                                                              |
| 資本金     | 196億円                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
| 代表執行役社長 | 辻 裕一                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 業務内容    | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 各種繊維、繊維工業品の製造・加工および販売</li> <li>● ロックウール製品ならびに各種建築材料の製造・加工および販売</li> <li>● グラスファイバー製品の製造・加工および販売</li> <li>● 各種化学工業製品、医薬品の製造、加工および販売</li> <li>● 清涼飲料水の製造および販売</li> <li>● 各種工事の設計・監理および請負</li> <li>● 各種機器、装置の設計・製造および販売</li> <li>● 不動産、施設の売買・賃貸および運営管理 ほか</li> </ul> |

## 沿革

- 1898(明治31)年 郡山絹糸紡績株式会社(郡山)設立
- 1918(大正7)年 福島精練製糸株式会社(福島)設立
- 1923(大正12)年 日東紡績株式会社創立  
ー福島紡績株式会社(旧 福島精練製糸(株))が片倉製糸岩代紡績所(旧 郡山絹糸紡績(株))を買収するかたちをとり、商号を日東紡績株式会社に変更し、創立
- 1938(昭和13)年 グラスファイバーの工業化に成功  
ー日本初、世界では米国オーエンスコーニングファイバーグラス社が同時期に工業化  
日本で初めてロックウールの製造を開始
- 1949(昭和24)年 日本で初めてグラスウールの製造を開始
- 1960(昭和35)年 ロングセラー商品となる「日東紡の新しいふきん®」を発売
- 1965(昭和40)年 コアスパン糸「C・S・Y®」の製造を開始
- 1969(昭和44)年 プリント配線基板用ガラスクロス製造を開始  
レディス用芯地「ダンレーヌ®」の製造を開始
- 1982(昭和57)年 血液凝固因子検査薬の製造を開始
- 1983(昭和58)年 世界で初めて機能性ポリマー「PAA®」の工業化に成功
- 1988(昭和63)年 免疫血清学系検査薬を発売
- 1997(平成9)年 飲料事業を開始
- 2008(平成20)年 福島工場・福島第2工場がP R T R大賞を受賞
- 2015(平成27)年 「日東紡の新しいふきん®」がグッドデザイン・ロングライフデザイン賞を受賞

### 環境への取り組み

日東紡グループは地球環境問題の重要性を認識し、企業存続の条件としてよりよい環境の創造と保全のため、省エネルギー・資源の有効活用・公害の防止等に自主的かつ積極的に取り組むことを行動綱領として定めています。この理念に基づき「日東紡環境憲章」や「環境に関する全社方針」を定めて継続的な改善に努めています。

### 地域貢献への取り組み

日東紡グループの事業所では、地域社会との調和を図り、共に発展していくことを目指して事業活動を行っています。

### 地域クリーン行事への参加

福島工場では、福島市内を流れる清流「荒川」のクリーンアップ大作戦に地域社会の一員として参加し、また福島第2工場では、コミュニティ強化として、地域の方と共に近隣河川の清掃活動を実施しています。



### 子ども科学教室開催

福島工場では、次世代を担う子どもたちに科学や環境への関心を高めてもらうために子ども科学教室を開催しています。2012年度からは富久山事業センターでもこの取り組みを実施しています。

子ども科学教室では、従業員のアイデアや工夫を活かし、製品であるグラスファイバーの原料を用いたスライム実験や、ペットボトルを用いた繊維製造実験など様々な実験を子どもたちと行います(写真は富久山事業センター実施のもの)。



### その他の地域交流

福島工場、福島第2工場では、地域の皆様を対象に、環境への取り組みに関する説明会(モニター委員会)を開催しています。ニッポー新潟では、社会貢献の一環として、大学生等の工場見学受け入れを行っています。







繭から生糸、生糸から繊維にする2つの紡績会社が合併して誕生した会社であり、激動の大正時代・昭和時代、変化の平成時代という90年を超える長い歴史の中で、度重なる困難な局面を高度な技術力と柔軟な発想で乗り越え、今日を迎えています。創業の繊維事業は芯地・多層構造糸等の特色のある商品で、業界において確固たる位置づけにあります。また、「何でも糸にしてみよう」という考えのもと、硝子の繊維化に挑戦し、1938年に世界初となるグラスファイバーの工業化に成功したグラスファイバー事業は、樹脂・電子材料・産業資材・断熱材等様々な用途に使われる素材として着実に業容を拡大させています。その他、ヤギの血清由来の抗体を用いた体外診断薬を核とするメディカル事業や機能性ポリマー等の当社の独自技術を活かしたスペシャリティケミカル事業、黒部の名水を使った飲料事業など一見異業種とも思える多種多様な分野に、繊維業で培ったDNAを活かし、果敢に新しい挑戦をしています。2023年に創立100周年を迎えるこの大きな節目を視野に、2023年度に目指すべき企業像として「顧客と技術を基軸とした、特色ある事業・商品群を持ち、創業の地・福島から、そして日本から世界ヘイノベーション(革新)を発信し続ける企業」を掲げました。そして、その核になるのが「人材」です。「広く見渡し、深く考え、果敢に行動し、粘り強くチャレンジし、やり遂げる」活気に満ちた人材が活躍できるフィールドが日東紡には広がっています。新たな歴史を紡ぐ人材の活躍を楽しみにしています。

## 日東紡績 株式会社

〒102-8489 東京都千代田区麹町2-4-1 麹町大通りビル  
人事部人事グループ 新卒採用担当



The background of the entire image is a light blue color with a pattern of concentric, semi-transparent circles and arcs, creating a sense of depth and movement. The Nittobo logo is prominently displayed on the left side in a bold, blue, sans-serif font.

# Nittobo

挑戦しつづけることが、創造へと導く。